

鹿苑における「奈良のシカ」の収容及び管理・治療の ガイドライン骨子（案）

1. 背景と目的

2. 本ガイドラインの位置づけ

3. 基本的な考え方

(1) 鹿苑の設置目的と役割

→ 鹿苑の設置目的に沿った個体を収容し、収容個体の管理、治療行為を行う

(2) 鹿苑における収容、管理方針

→ 鹿苑へのシカの収容方針：原則一時収容

→ 群管理による管理を進める

→ 動物福祉の評価：福祉の基準と測定方法例の整理

① 適正な給餌：長期にわたる飢餓がない、長期にわたる渇きがない

② 適正な収容環境：快適な休息、快適な温度、動きやすさ

③ 適正な健康：傷害、疾患、痛みがない

④ 適正な行動：社会性行動、その他行動の発現、人に対する反応、前向きな情動状態

(3) ガイドラインに沿った管理・治療を行う上で求められる人材（特に、獣医師等専門家）

→ 獣医師

資質要件：鹿苑の意義、役割を理解し、野生動物獣医学、動物福祉治療、群管理、公衆衛生対策等を実施可能であること

→ 野生シカの生態に詳しい専門家

資質要件：鹿苑の意義、役割を理解し、野生シカの生態や奈良のシカの歴史的経緯に詳しく、「奈良のシカ」の保護育成を目的とした調査研究や普及啓発の企画が実施可能であること

→ 事業課職員

資質要件：鹿苑の意義、役割を理解し、野生シカの取り扱いに慣れており、「奈良のシカ」の保護育成を目的とした鹿苑における飼育・施設管理や調査研究や普及啓発（角きり等伝統行事を含む）が実施可能であること

4. 管理編：各論で方法を整理

(1) 管理の定義：鹿苑への収容に関連する行為（収容・放獣行為、収容環境の維持管理、収容シカの状態把握等）

(2) 収容頭数：妊娠ジカ、仔シカ、角切り等の季節的イベントを踏まえた収容頭数の目安

(3) 原則一時収容：収容方針、放獣方針

(4) 管理行為の方法、指標データの把握方法：現状把握、介入措置の効果検証のため

・ボディコンディションスコア、給餌、給水

- ・収容環境の維持管理：日陰、給餌給水環境、群れ動物を考慮した環境
- ・健康状態の観察：傷害、疾患等の確認→「5.治療編」での処置。人獣共通感染症にも留意。
- ・行動観察

(5) 職員の感染症防止対策

5. 治療編：治療方針を整理

- (1) 治療を行う状態の基準
- (2) 一時収容：基本的には応急処置
- (3) 負傷動物の治療方法等
- (4) 動物福祉を担保するための治療の一環としての安楽死

6. ガイドラインの見直し

- ・本ガイドラインは、奈良のシカの生息状況の変化や本ガイドラインに従った管理や治療の実施により得られた知見や課題を蓄積するとともに、順応的に見直すこととする。

以上